

## 令和3年度学校アンケート結果

日頃は、本校教育にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。本年度の児童・保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。結果と次年度への改善策をご報告します。

**※別紙に結果のグラフを掲載しております。また、学校のホームページにも掲載しています。**

### (1) 基本的な生活習慣の育成

昨年度に引き続き、幼小中一貫教育で『瀬戸中学校区の子どもたちは、「あいさつ」と「なかま」を大切にします。』を目標に、それぞれの校・園で発達段階に合わせた取組を継続して行ってきました。

児童⑩「先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている」では、77%が「あてはまる」と回答しており、昨年度と比べ少し改善した結果となりました。今年度は、あいさつ運動を高学年を中心に行ったり、中学生と合同で実施するなど、一年を通じて取組を行いました。その結果、子どもたちが校内で行うあいさつが増えてきたという教職員の実感があり、来校者からもあいさつについてお褒めいただくことが何回かありました。目安とする80%にあと一息であり、子どもたちにも定着しつつあるので、今後も全校をあげてあいさつの取組を継続していきたいと考えています。

児童⑮「朝は決まった時間に起きている」は、早寝・早起き・朝食の摂取の定着を図ることを生活面での重点目標にして取り組んできました。子どもたちの回答は、「全くあてはまらない」の割合が減少したものの、肯定的な回答は約69%とあまり改善は見られず、規則正しい生活リズムの定着については、ご家庭と連携を図りながら今後も進めていく必要があると感じています。

児童⑳「学校のきまりを守る」及び保護者⑤の「学習規律への取組」、㉑の「子どもはルールを守る意識が育っている」が目安の80%を超えています。学校全体として、落ち着いた生活や授業風景が定着してきたとの実感が教職員にも見られ、取組が一定の成果を上げていると考えます。

児童④の「進んで運動し、体力作りをする」は、「あてはまる」が80%に達していませんが、コロナ禍での運動行事の制限がある中で、「元気っ子タイム」等の全校行事や、休み時間での外遊びの奨励などを通して、一年中、多くの児童が運動場で体を動かしている姿が見られています。今後も運動を楽しむ態度を育てる取組を継続していきます。

### (2) 基本的な学習習慣の育成と学力の向上

本校では、視覚支援等の誰もがわかりやすい授業をめざして工夫し、実践してきました。児童①の「先生はわかりやすく教えてくれる」の肯定的な回答は97%あり、児童は理解しやすい授業と感じているようです。しかし、本年度実施した、全国学力調査や県ステップアップテストの結果を見ると、学力の定着度には大きな課題があります。少しずつ、落ち着いた環境で学習に取り組む姿が増えているものの、それが学力の定着に十分に結びついていないと考えられます。

本校では、来年度から算数科における授業改善を中心とした研究を進めることになっています。基礎・基本の理解と定着を図り、思考力、判断力、表現力を高める学習活動を通して、子どもたちの学力向上をめざします。

また、学力向上策として、子どもたちの読書の習慣化をめざした取組を進めてきました。児童㉒「本や新聞などをよく読んでいる」では、肯定的な回答は60%達していません。しかし、本年度の学校図書室の貸出総数は、全校で7500冊を超えおり、これは5年前の約2倍の数になります。本好きの児童が増えているのは、教員も感じており、読書の習慣化は今後も引き続いて取り組む考えです。

### (3) 人権意識と自己有用感の育成

幼小中一貫教育のめあてとして「なかまを大切にする」ことを全校で取り組んできました。昨年度に引き続き、児童⑭「いじめはいけないことだ」は、肯定的な回答が94%の高い割合となっています。また、児童⑲「友だちと仲よくしている」及び保護者⑭「子どもは、人のことを大切にして、友だちと仲よくしている」の肯定的な回答はいずれも80%を超えており、人権意識の高まりを支える力が育っていると感じています。人権学習で人権課題を学んでいくことはもちろん、他の学習活動や行事等を通して、自他を大切にす人権意識の向上を継続していきたいと考えています。

自己肯定感については、児童⑨「自分にはよいところがある」が、69.7%と昨年より微増となっています。各学年で「いいところさがし」や「ありがとうカード」などの取組により、子どもたちがお互いの良い所を認め合う取組をしてきました。児童⑩「先生は、勉強や運動、生活でがんばったとき褒めてくれる」の肯定的な回答が、目安の80%を超えており、友だちや先生に認められていると感じている子どもは多いものの、それが自分のよさと感じることにつながっていないことが今後の課題です。

今年度は、コロナ禍での活動制約はあったものの、子どもたちが、委員会活動や行事を通して「みんなのために」活動し、充実感や達成感を感じることできるような教育活動を積極的に取り入れてきました。その結果、児童⑩「自分は人の役に立つことができる」の肯定的な回答が80%を超え、自己有用感の高まりはあると思われます。したがって、今後は、自己有用感等が「自分のよさ」発見につながり、自己肯定感の高まりにつながるような工夫・改善が必要であると考えます。

幼小中一貫教育の取組や交流については、中止となった活動が多かったものの、「人権フェスティバル」、「小中合同のあいさつ運動」、「中学生による読み聞かせ」、「幼稚園児とのタマネギ掘り」などを実施してきました。アンケートでも児童⑳「幼稚園や中学校との学習は楽しい」や保護者㉑「幼稚園、中学校との連携を進めている」の肯定的な回答は、いずれも80%を超えています。来年度以降も幼稚園や中学校と連携を進め、活動内容の工夫や改善を図っていこうと思います。

### (4) 一人一人に応じた指導・支援

児童①「授業をわかりやすく教えてくれる」では、肯定的な回答は、97%と高く、児童㉒「授業中、先生は1人より2人以上がいい」の肯定的な回答は、80%に達するまでであともう少しです。本校では、できる限り複数での指導体制で授業を行うことにしています。実際の授業においては、学習内容についての個別支援や学習に集中できない子どもへの声かけ、落ち着いた授業環境の確立に、複数指導のメリットを生かして対応してきました。今後も児童の実態に合わせた複数指導の体制や授業方法について改善を図っていきます。

また、信頼される学校をめざして、児童や保護者に対し真摯に取り組む姿勢を基本とし、家庭との連絡を密にして連携を深めていきたいと考えています。そうすることで児童㉑「相談にのってくれる」や保護者㉑「問題に素早く対応してくれる」についての肯定的な回答へとつなげたいと思います。いじめ対策は、年3回(7月・9月・12月)の「いじめ調査」を行い、聞き取り・指導・連絡の対応をとっており、これからも素早い対応を心がけます。また、一人一人の特性に合わせて、教育相談や個別の指導等の支援体制を整えていきます。

### (5) その他

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、PTA活動や、地域の行事の多くが中止または規模の縮小となりました。しかし、活動内容や方法の工夫を行い、できるだけ子どもたちの学習活動を行ってきました。

来年度も、幼小中の連携を図りながら、一貫教育の充実をめざして取組を進めていきたいと考えます。